

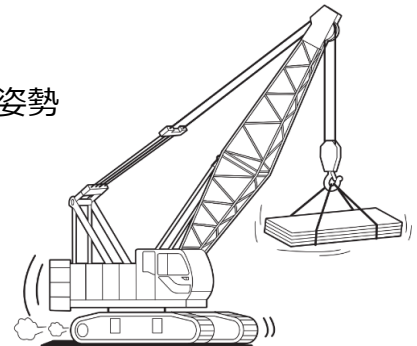
吊荷走行時の注意点

クローラクレーンは、走行を停止した状態で荷重を吊る事を想定しており、吊荷走行は原則禁止です。定格総荷重表も、停止状態で水平堅土上で吊る場合を想定しており、一部の機種を除き吊荷走行用の定格総荷重表は未設定です。やむを得ず吊荷走行用定格総荷重表が無い機種で吊荷走行を行う際には、以下の注意事項を厳守いただき実施下さい。

※正式な書面は、最後部のリンクから日本建設機械工業会のHPでご確認下さい。

▼吊荷走行時の注意事項（7000シリーズの場合）

- 事前に誘導者を決め、その指示に従って走行してください。
- 平坦な路面で行って下さい。傾斜していたり軟弱地盤では行わないで下さい。
 - ☆ 傾斜地では荷振れが起こりやすい為、軟弱地盤ではバランスを崩す恐れがある為。
- 吊荷は地面に近い低い位置で吊り、荷振れしないように支持して下さい。
- 吊荷の巻上高さは地面から300mm以下とし、地面に出来るだけ近い状態にしてください。
 - ☆ 重心位置を下げる事で本体を安定させる為。
- 走行速度は0.5km/h以下で、吊荷に振動を与えないようにして下さい。
- 走行はクローラの前進方向のみで行って下さい
- 吊方向は、前方のみにして下さい。
 - ☆ 「走行モータは後+アイドラは前+ブームも前」が最も安定した姿勢
- 走行中は、巻上、ブーム起伏及び旋回はしないで下さい。
- 旋回ロック、旋回ブレーキを掛けて下さい。
- ブーム長さは、最長長さの1/2以下として下さい。
- 吊荷重は定格総荷重の1/3以下として下さい。
- 電線の下等を通過する時は十分な間隔をとって下さい。
- 吊荷を吊ったまま機械の方向を変えないで下さい。その際は、一旦吊荷を地面に降ろして下さい。
 - ☆ ①荷重を下ろす、②クローラの方向を変える、③荷重を吊る、④旋回する、⑤走行開始。



▼各メーカーによる対応一覧表

各メーカーによる吊荷走行時の注意事項一覧表が、日本建設機械工業会のHPにありますので、詳細は以下のリンクからご確認下さい。

https://www.cema.or.jp/general/system_document/2020crane.html

クローラクレーンのつり荷走行について | 日本建設機械工業会 (cema.or.jp)